

サーチライト With Pastor Jon 創世記 3 章 パート 1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞かならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

天のお父様。どうか、この学びの時を祝福して下さい。

私たちが正しく理解できるように。

知識だけでなく、聖霊に深く触れられて真実を行いたい、あなたが私たちにして下さいったことをはっきり悟りたい、と心から願います。

主よ。この時を祝福して下さい。

私たちの思いを新たに、信仰を強め、私たちにあなたの清い心を造って下さい。

主を知り、大きな視点で真実をしっかり捉えますように。

あなたが語られた通りにみことばを学ぶことを通して、なお一層あなたをほめたたえます。

イエスの御名によって。アーメン。

場面は引き続きエデンの園。

前回は、アダムとエバが、とてつもなく素晴らしい一体となった事を体験しているところで終わりました。

この結合は、他の全ての人たちから離れて、二人が互いに結び合うように、と主が命じたことです。

今まで見てきたように、離れること、そして、結び合うことは、結婚生活に於いて、二人が一体であることを経験する上でとても大切な鍵となります。

前回の学びをまだ聞いていないならぜひ聞いて、エデンの園で明らかにされた、結婚を生き生きとしたものにする原動力を見つけ、考えを深めると良いでしょう。

では。エデンの園での物語は続き、佳境に入っていきます。

さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。

(創世記 3:1)

Now the serpent was more subtle than any beast of the field which the LORD God had made. (KJV)

(*serpent : 蛇。陰険で悪意を秘めた、というイメージがある)

園にいる二人に蛇が話しかけます。

蛇は園の中で最も美しい被造物でしたが、皆さんも知っているように、ある理由によって呪われ、“敵”を代表するものとなります。

その当時の蛇は、今日私たちが見るような地を這うものではなく、まっすぐに立っていて、その美しさは他に比べるものがないほどでした。

その蛇がここエデンの園にいて、自身をサタンに明け渡してしまったのです。

蛇は女に話しかけます。

これ以降、実際は、蛇を通してサタンが語っていきます。

サタンは竜と表現され、蛇と呼ばれていますね。(黙示録 12:9)

サタンはこの生き物の中に存在して、エバに言いました。

「もしもし、**あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。**シューシューシュー」(創世記 3:1)

蛇の声が聞こえてくるようですね。

これが崩壊の始まりでした。

サタンは神のことばに対して疑いを抱かせるように質問しています。

彼は、エバにそれとなく持ち掛けました。

「神のことばは、本当には、明確には、完全には、理解できるものではないですよねえ。

全くもって…。」

「神は本当にそう言ったのですか?」「神が言ったことを、本当に分かっていますか?」

何年か前に参加した高校生の集会を思い出します。

その時私はヨハネ 3:16 から、とてもシンプルなメッセージをしました。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。(ヨハネ 3:16)

そのシンプルなメッセージの後、一人の高校生が私の所へ来てこう言うのです。

「ジョン先生、教えて下さい。この箇所は、本当は、何を意味しているのですか?」

私は「本当の意味とは、どういう意味?」

すると彼は「ギリシャ語では、どういう意味なんですか?」

そこで私は言いました。

「それは、書かれている通りの意味なんだ。その意味の通りに書かれているんだよ。」

おかしなことに、クリスチャン世界の中でも、自分たちがみことばを正しく理解しているのかと疑問に思っているのです。

と言っても、無神論者のように疑うのではなく、自分の理解力に対して神学的に疑問を持っている。

聞いて下さい。

神のことばは、驚くほどシンプルです。

人の意見に惑わされてはいけません。

みことばは、書かれている通りの意味で、意味している通りに書かれています。

サタンの手口はいつも、「本当にみことばを理解できるのだろうか？」という思いを抱かせること。

気をつけて！

聖書を理解するだけの能力がないとか、正しく教えられていないとか、思わせようとする

サタンの狡猾な惑わしにやられないように!!

いいですか？

聖書を読みながら「よく分からない…」と思うかもしれません。

でも、それはみんな同じです。

マーク・トゥエインは言いました。

(*Mark Twain: 1835 - 1910 “トム・ソーヤーの冒険”等の著者。懐疑主義者。)

『厄介なのは、知らないことではなく、知っていること。』

懐疑主義者はまさしくそうです。

自分が本当に正しく理解できているか心配になる。

この場面では、神のことばはとても明確なのに、サタンが来て、エバにほのめかしています。「丸ごと正しく理解していない」と。

「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」

(創世記 3:1)

「本当に？」これがサタンの手口。

「本当にちゃんと聞いたのか？」「本当にそうなのか？」

「エバ、本当に、完全に理解していると思うのか？」

女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の實を食べてよいのです。(創世記 3:2)

しかし、園の中央にある木の實について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ。』と仰せになりました。(創世記 3:3)

ここでエバはサタンと対話してしまいます。

これは、常に危険な行為。

エバはサタンの質問や疑いを自然に聞いてしまいました。

それで彼女はどうしましたか？

ご覧の通り、彼女は途方もなく忌々しくて、危険極まりない失敗をしてしまいます。

確か、数週間前にもお話ししましたが。

エバは、神が命令したことは「園の中央にある善悪の知識の木から取って食べてはいけない。それに触れてもいけない。」ことだと言いました。

ちょっと待った！ エバ!!

「それに触れてもいけない。」神はそんなこと、言ってません！

よく気を付けないと、破滅へ向かっていきます。

エバは、神のことばにつけ加えているのです。

興味深いことに、サタンはみことばを取り除こうとし、エバはみことばに加えている。

その両方共が非常に危険で、とんでもないことです。

どうして？ みことばにつけ加える時、何が起こるでしょうか？

エバはただひと言、「触れてもいけない」とつけ加えただけで、私には問題ないように思えます。

神はそんなこと、言いませんでしたが。

しかしこれは、自分が神の命令に背いていないということを確認するための守りの保険、限定する別の規則を加えたということ。

これが、律法主義の始まりなのです。

「間違いを犯したり、混乱がないことを確認するために、みことばに少し加えよう。」

神のことばに余分な規則や条件や規制をつけ足すことは律法主義です。

それはいつも人を縛り付け、苦しみの原因となり、神から離れる結果をもたらす。

それが問題なのです。

“宗教”の意味は“縛り付ける”ということを知っていましたか？

これが、律法主義がなすことで、人々を縛り上げる。

ほんの少し言葉を、規則を、規制を加える。

それらは神が言っていないことなのに。

「禁断の木の実に近づかないように、自分や周りの人たちを守ろうとしてるんだ。」と言いながら、他の規則を加える。

でも実際は、これら、つけ加えられたものは人々に重荷を負わせ、苦痛を与えるので、最終的に人々は「もうたくさんだ!!」と神から離れてしまうのです。

どれだけの人が、教会の善意の言動、恐らく悪意はなかったでしょうが、それが原因で主から離れたことでしょうか。

また、両親が疑いもなく良かれと思って子供たちに与えた余分の規則や規制、それが彼らには重荷となって鬱憤がたまり、遂に「そんな規則を守れる人間なんているか!」「こんなこと、やってられない!」と、神から離れてしまう。

よくあることです。

ここでエバは、神が絶対に言わなかったこと、「触れてもいけない」を加えました。

理にかなっているように見えますが、神は言っていない。

エバが個人的に自分を納得させるのは良いでしょう。しかし、神は言っていない。

エバが自分の弱い部分に防壁を設けたいのなら、それは構いません。

それは私も同じです。しかし、神は言っていない。

エバは、「**神が**、『触れてはいけない』と仰せになった。」(創世記 3:3)

神は、「わたしはそんなこと、言っていない。エバ、それはあなたのルールであり、あなた自身の宗教だ。」

丁度、サタンが神のことばの正確さに疑いを持たせようとしていた時に、エバは神のことばにつけ加えたのです。

そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。」(創世記 3:4)

蛇は神のことばに遠回しに異議を唱えています。

「あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」(創世記 3:5)

初めに、サタンはエバに疑いを抱かせました。

「本当に神が言ったことを理解しているのか?」「本当に?」

それでエバは、自分の律法主義的な規制を付け加えます。

そうしたら、サタンは殺しにかかる。

自分の敵が「神のことばは事実じゃない」と言う時に。

「あなたは死なない。あなたの目は開かれて、あなたは神のようになる。」

サタンは最初に、神のことばを疑わせようとしてしました。「いい——や! 違う!」と。

そして、神のやり方に疑問を呈する。

どういう意味?

この時サタンが言っているのは、「神があなた方に隠しているものは、あなた方にとってはとっても楽しいこと、ためになること、刺激的なこと。」

「神は何かを隠している。」

あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり(創世記 3:5)

「聞きなさい。あなた方は神のようにとび抜けた力を持つようになるし、とても素晴らしいことが待ち受けている。それなのに神はそうさせまいとしている。だって、神はあり得ないほどに興ざめさせる方だから。神は何かを隠しているんだ。」

これが敵サタンの戦略で、それは今も同じです。

サタンは子供たち、友人たち、近所の人たちに蛇のようにスルスルと這い上って来て、彼らの耳にシュー…という音を立てて話します。

「なんでそれがいけないのか、知ってる? それはすごく面白いからさ! きっとワクワクするに違いないんだ。でも、神はそれを与えたくないのさ。」

「神はお前を束縛して、惨めでいて欲しいんだ。」

「白くて長い髭をたくわえた天国の神様が、瓶底眼鏡の奥から容赦ない冷たい目で、下界のどこかで誰かが楽しいことをしていないかと、気を揉みながら見張っている。」

これが、多くの場合、人々が天の神に抱くイメージです。

事実、今でも(*1994年)ティーンエイジャーたち、あなたや私でも、つまり、年齢を問わず全世代が、その中でも特に若者や富裕層は「どうしてやってはいけないんだ!?!」

「なぜそれを食べてはいけないんだ!?!」「なんてこった!」

「神はただ俺が惨めでいて欲しいのさ」と思っています。

もし、食べることが禁じられている禁断の木の実を食べたい衝動に駆られるなら、神の性質を疑うなら、神は最善を与えてくれないと思っているなら、私たちがすべきことは、その木から食べる前に、もう1本の木をしっかりと見ること。

カルバリーと呼ばれる木を。カルバリーの丘にある木を。

そこにおられる、打ち砕かれ、肉が裂かれ、血を流し、激しい苦しみと痛みの中で虐殺されたイエスを見ること。

知って下さい。

それが、禁断の果実があなたにもたらすもの。

罪のないイエスが、私たちのために罪人となられて十字架につけられたことで、罪が人間に何をもたらすかを見ることができます。

イエスが私たちの罪を担って、今まさに死にかけている、そのことが、**罪から来る報酬は死である（ローマ 6:23）** ことを鋭く証明しているのです。

私は子供たちとのディボーションの時に、いつも多くの時間を取ってこのことを語り合います。

「もし君たちが、『罪って楽しいことだから、その禁断の木の実を食べたい』と思った時は、もう1本の木をよく見るんだ。そうすれば、罪が最終的には何をもたらすかが分かるから。罪は君たちを十字架につけるんだよ。」

更にこれも話します。

「もし神が君たちに何かを隠しているとか、最善をしてくれないとか思うなら、もう一度その木をしっかりと見なさい。そこにイエスを、広げられた両腕、釘が打ち込まれている手のひらを見るから。

その時君たちは、『ほら！イエスは僕たちを熱烈に愛しているということを、疑うこともできないほどにはっきりと証明したんだ!!』と言うだろう。

十字架の横木に釘で打ち付けられた両手が、イエスは君たちの疑いに答えてくれるということを伝えているんだ。」

だから私は、しょっちゅう主の食卓に着かなければならないのです。

だから私には、いつも聖餐が必要なのです。

なぜなら、聖餐は、主が私をどれほど情熱的に愛しているかを思い出させるから。

主は私に最善をしたいのです。

なので、私に間違った無用のものを与えたりはしないでしょ。

それゆえに主よ。あなたが死ぬほどに私を愛して下さっているから、あなたが私に「しなさい」或いは「避けるべきだ」と言ったことは、絶対にその通りなのです。

なぜなら主よ。あなたは私を愛し、最善をなしたいと願っているから。

「ジョン、それは分かり易い！」でしょ!?

そこで、お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、それにミニストリーの弟子である人たちがすべきことは、常に人々をその木、十字架に向けさせ続けることです。

そうでないと、人はすぐに禁断の木の実にそそられるから。

大人にも子供にも、常に禁断の果実を食べることの誘惑が付きまとうから。

だから私たちは「もう1本の木に頼れ！」と言わなければなりません。

第1に、罪は死をもたらすから。

キリストに対して行われたことを見れば分かるように、罪が引き起こすことは、血にまみれた虐殺と思いや考えの混乱。

第2に、主はあなたを非常に愛しているので、あなたの罪の身代わりとなって、あなたのために死なれたから。

今、主に心から信頼しましょう。

主が「“それ” から離れなさい」と語るなら、“それ” は罪であり、あなたをひどく傷つけるのです。

しかしエバは木の周りをウロウロし、実を眺めていて、サタンに耳を傾けました。

そこで蛇、サタンは「**あなたがたは決して死にません。**」(創世記 3:4)

「あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」(創世記 3:5)

もしノートを取っているなら、サタンがエバに言った 3 つのことを書き留めて下さい。

古い嘘偽りが、今 (*1994 年)、ニューエイジの一部となっています。

ニューエイジは、古代の嘘偽りを基礎にしてできているのです。

サタンは 3 つのことをエバに言いました。

No.1 ; あなたは死なない。

No.2 ; あなたの目が開かれる。光が射す。

No.3 ; あなたは神になる。

ニューエイジの教えは何ですか？

No.1、あなたは死なない。生まれ変わるだけ。死にませんよ！ 次のサイクルに移るだけ。

全てがカルマ (業、因果応報)。あなたは死なない！ 死にません!!

No.2、あなたを制する禁断の木の実のようなものはないのだから、何でも臆せず経験することで目が開かれてあなたは輝き啓発される。

これが鍵です。

だから、ニューエイジの教えは“何でもあり”なのです。

みんなが正しい。全てが真実。これで分かりましたね!?

No.1、あなたは死なない。

No.2、何にも縛られないで輝く。

そして…No.3、あなたは神になる。

シャーリー・マックレインを知っていますか？

(*Shirley MacLaine : 1934— アメリカ出身の女優。世界的ベストセラーの“アウト・オン・ア・リム”等、自身の神秘体験の著作多数。ニューエイジの旗手。)

“out of my tree” (私はバカ／酔っ払い) だか “out on a limb” (危うい立場・状況／非難を受け易い) だか何であれ、ビーチに立って両手を広げて、彼女は何と言いましたか？

「私は神…、私は神…」

あれをテレビで見た日のことを決して忘れません。

波打ち際に立って「私は神…、私は神…」と。

私が人生の中で見た、一番の悪夢のようなバカバカしい光景でしたよ。

あれを見ていた人たちに大声で伝えたかった。本当に。

「い——や、違う!! 違う!! 違う!! あんたは違う!!!」

絶対に否定しようのない事実が 2 つあります。

No.1、神は存在する。

No.2、あなたは神じゃない。

だけど見て下さい。

エデンの園で、まさしくそこで、サタンは、まさに人類の初めからその歴史を通してずっと使い続けて来た手口を利用して、今ではそれがニューエイジになっている。

ニューエイジは、単に昔からある嘘偽りです。

あなたは死なない。禁断の経験を通して目が開かれ悟りを得る。そして…あなたは神。

そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。

それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

(創世記 3:6)

ワオ！

女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。(創世記 3:6)

I ヨハネ 2:16 によると、全ての罪は 3 種類に分類されます。

すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。(I ヨハネ 2:16)

どんな罪も、全ての罪が、この 3 つのどれかに当てはまります。

肉の欲—食べるのに良い。

目の欲—目に慕わしい、見た目が良い。

暮らし向きの自慢—賢くする。

エバはそこにいて、この嘘偽りに喰いついてしまいました。

女は惑わされた。しかしアダムは惑わされなかった。(I テモテ 2:16)

彼女は禁断の木の実を、それが何の実であれ、アダムに与えます。

ところで何年も前に、タイム誌が論説で“なぜ聖書を文字通りに受け取ってはいけないか”について、私たちが知っていることをベースにして論じていました。

“エデンの園での話は、今の時代には全くもって絶対的に通用しない。

なぜなら、あの地域ではリンゴは生来育たないから。

したがって、エバがアダムにリンゴを与えたという話は…記事は続きます…間違いであると証明されている。そこでは、リンゴの木は育たないのだから。”

私は啞然とし、驚愕して、その記事を切り抜いたのですが、今はどこにあるのか見つかりません。

聖書にはリンゴの木とは書かれていません。

禁断の木の実がリンゴだとは、聖書のどこにも書いてない。

タイム誌は聖書を創作して論説を書く代わりに、今一度聖書を読むべきです。

そうすれば、もう少しマシになるでしょう。

それが何の実だったのかは私たちには正確には分かりませんが、何であったとしても、

それがアダムに与えられた時には、彼はエバが惑わされていたことを知っていたのです！

しかし、アダムは決めました。何を？

「神に聞き従うよりも、彼女と一緒にいたい。」

もしエバが禁断の木の実を食べるなら罪の中に堕ちる。

アダムは今、2つの分かれ道、2つの異なるレベルの所に立っている状況です。

そうして彼は、本質的に、神が言ったことに聞き従い、この状況を解決して下さる神に信頼するよりも、自分をおとしめ破滅に向かってでも彼女と一緒にいる方がいいと言ったのです。

つづく

このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストにあって歩みなさい。キリストのうちに根ざし、建てられ、教えられたとおりの信仰を堅くし、あふれるばかりに感謝しなさい。あの空しいだましごとの哲学によって、だれかの捕らわれの身にならないように、注意しなさい。それは人間の言い伝えによるもの、この世のもろもろの霊によるものであり、キリストによるものではありません。
(コロサイ 2:6-8 新改訳 2017)